

## 第2部 調布市の子ども の 状況

### 1. 世帯タイプ

#### (1) ひとり親／ふたり親世帯

調布市の子どもの世帯タイプを「ひとり親世帯」と「ふたり親世帯」に分けた。両者ともに祖父母が同居している世帯を含む。その結果、小学5年生では7.1%、中学2年生では10.0%、16-17歳では14.9%が「ひとり親世帯」であった。(図表2-1-1) ひとり親世帯の割合は年齢が高い層のほう大きい。調査対象の他の3自治体と比べると、調布市においては、小学5年生におけるひとり親世帯の割合が若干少ない(表外)。16-17歳の方が、小学5年生に比べて、ひとり親世帯に属する子どもの割合が2倍以上となっており、特に、年齢の高い子どもを持つひとり親世帯に対する支援が望まれる。

図表 2-1-1 世帯タイプ：年齢層別

調布市	小学5年生	中学2年生	16-17歳
ふたり親世帯	92.9%	90.0%	85.2%
ひとり親世帯	7.1%	10.0%	14.9%

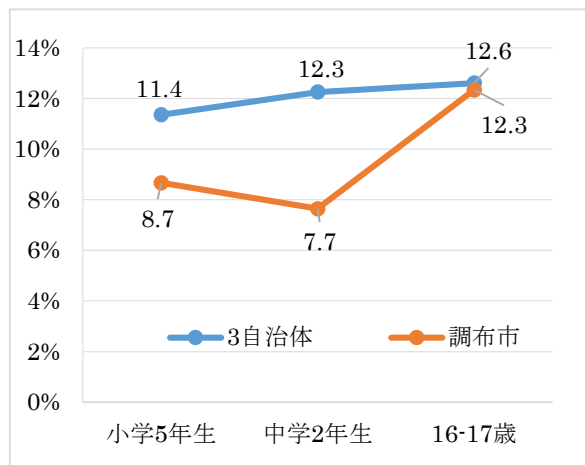
#### (2) 祖父母との同居

祖父母との同居の状況を見ると、調布市の小学5年生の8.7%、中学2年生の7.7%、16-17歳の12.3%は祖父か祖母(あるいは両方)と同居している。他の3自治体に比べ、調布市においては小学5年生、中学2年生における同居率の低さが特徴であるが、16-17歳となると同居率は他の3自治体とほぼ同じとなる。しかし、16-17歳も含め、祖父母との同居率は約1割に留まっており、子育てに祖父母の支援を受けることができる世帯は少ない。

図表 2-1-2 祖父母との同居：年齢層別

調布市	小学5年生	中学2年生	16-17歳
祖父母なし	91.3%	92.4%	87.7%
祖父母あり	8.7%	7.7%	12.3%

図表 2-1-3 祖父母との同居率：調布市、3自治体



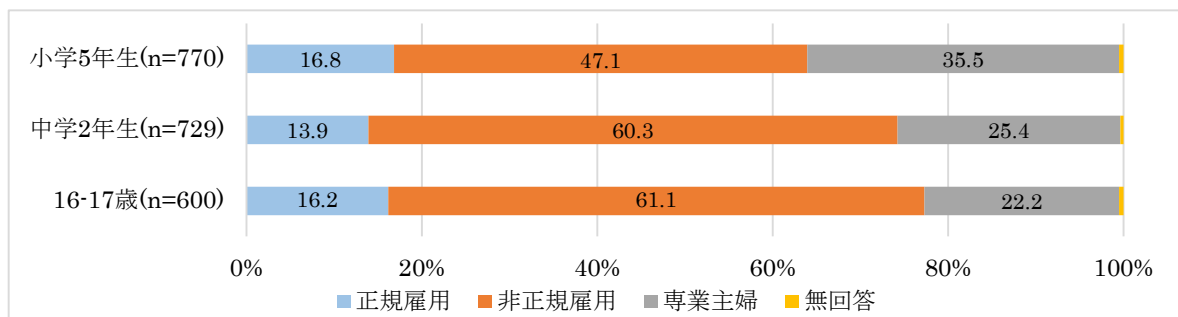
## 2. 父母の就労状況

### (1) 母親の就労状況

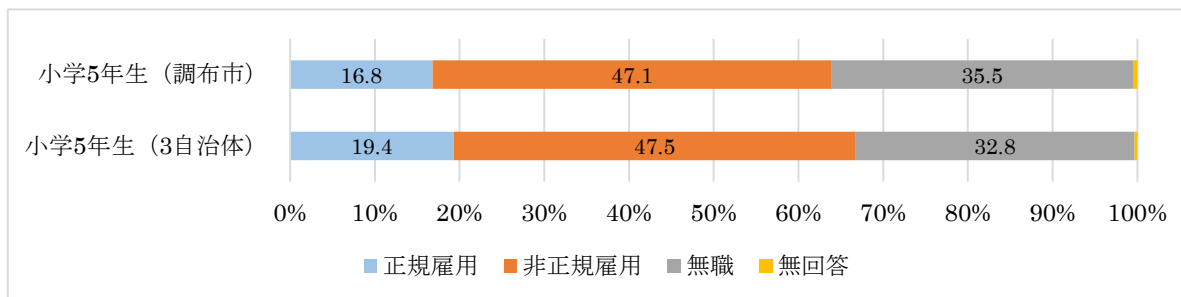
次に、母親の就労状況を見ると、ふたり親世帯においては、小学5年生の母親の約3分の1の35.5%が無職であり、いわゆる専業主婦である。この割合は子どもの年齢が高くなるにつれ少なくなり、16-17歳の母親においては22.2%となっている。一方、正規労働に就いている母親は小学5年生でも、16-17歳でも大きな差はなく、中学2年生にて若干低めになっているのみである。非正規労働は、小学5年生で47.1%、中学2年生で60.3%、16-17歳で61.1%である。小学5年生のふたり世帯の母親においても6割以上が就労している。

調査対象の他の3自治体と比べると、調布市のふたり親世帯の母親の就労状況は正社員が若干少なく、小学5年生と中学2年生では専業主婦が若干多い。

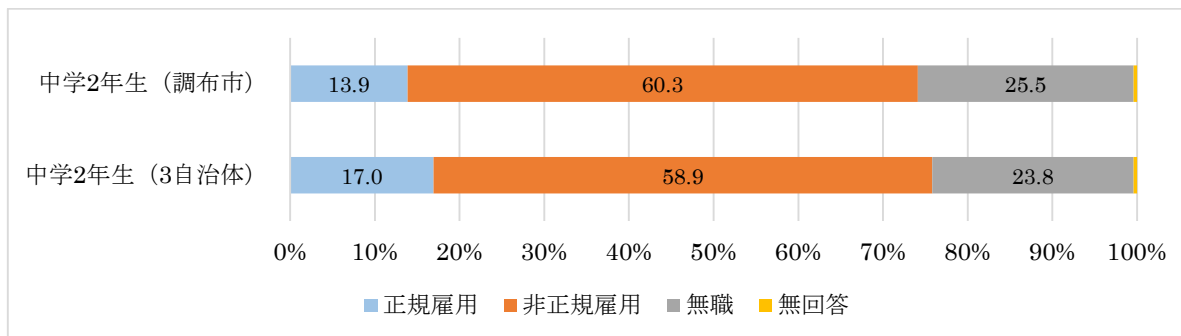
図表 2-2-1 母親の就労状況 ふたり親世帯：年齢層別 (\*\*\*)



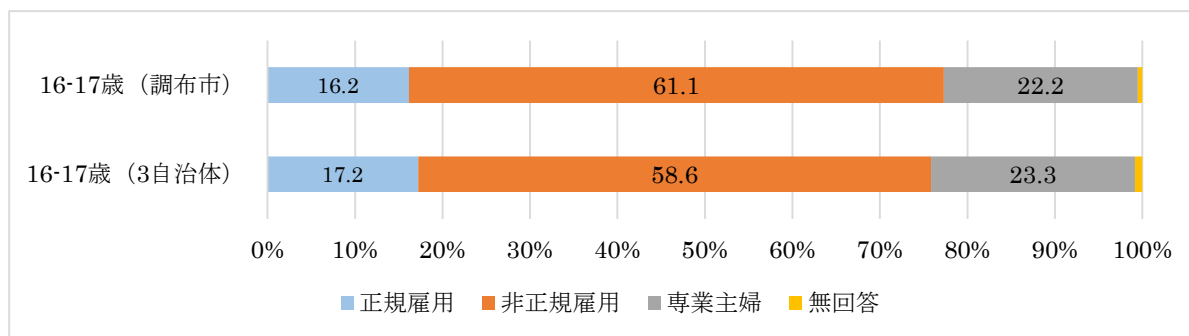
図表 2-2-2 母親の就労状況 ふたり親世帯 (小学5年生)：調布市、3自治体 (\*\*)



図表 2-2-3 母親の就労状況 ふたり親世帯 (中学2年生)：調布市、3自治体 (\*\*\*)



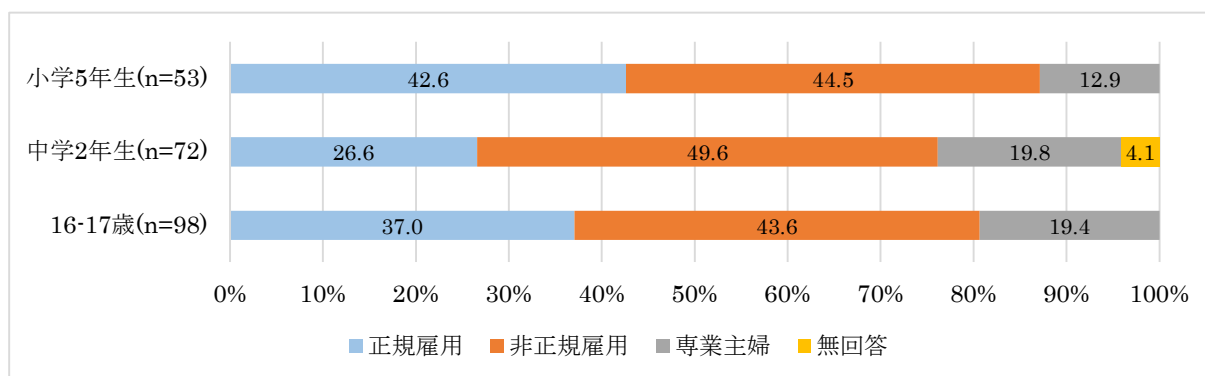
図表 2-2-4 母親の就労状況 ふたり親世帯（16-17歳）：調布市、3自治体（\*）



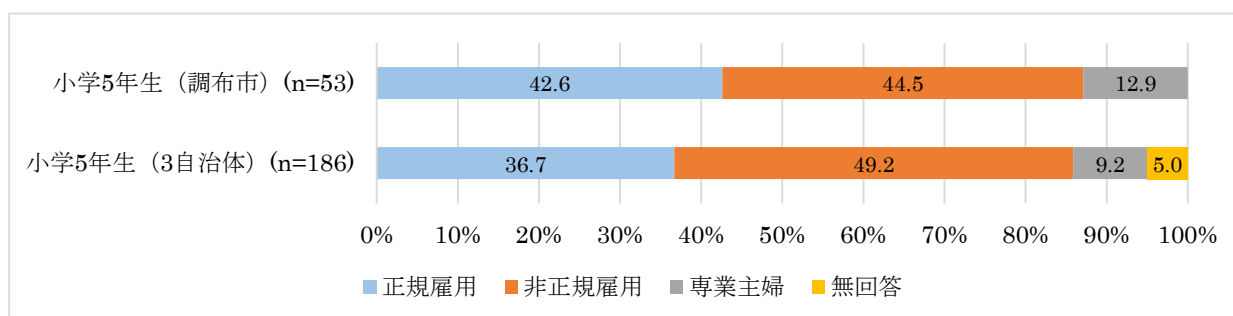
ひとり親世帯の母親（＝母子世帯の母親）については、小学5年生では42.6%、中学2年生では26.6%、16-17歳では37.0%が正規雇用であるが、サンプル数が少ないため、年齢層による母親の就労状況の差は統計的に有意ではない（統計的には差がないとは言えない）。しかし、働いているひとり親世帯の母親の半数以上は非正規雇用であり、正規雇用で働くことができていない母親の割合はふたり親世帯の母親より多いものの、決して高くはない。

また、調布市の特徴として、ひとり世帯の母親の専業主婦（＝無職）の割合が中学2年生、16-17歳において約2割存在することにある。16-17歳においては、他の3自治体に比べても約2倍の割合となっており、統計的な有意差が確認される。

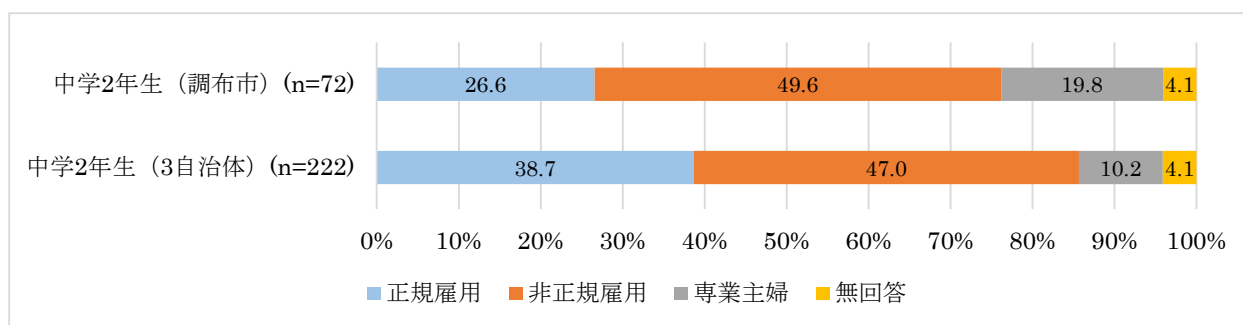
図表 2-2-5 母親の就労状況 ひとり親世帯：年齢層別（X）



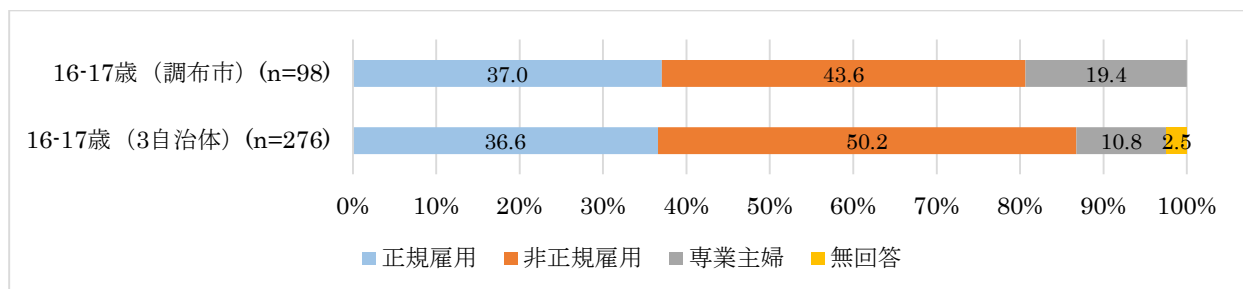
図表 2-2-6 母親の就労状況 ひとり親世帯（小学5年生）：調布市、3自治体（X）



図表 2-2-7 母親の就労状況 ひとり親世帯（中学2年生）：調布市、3自治体（X）



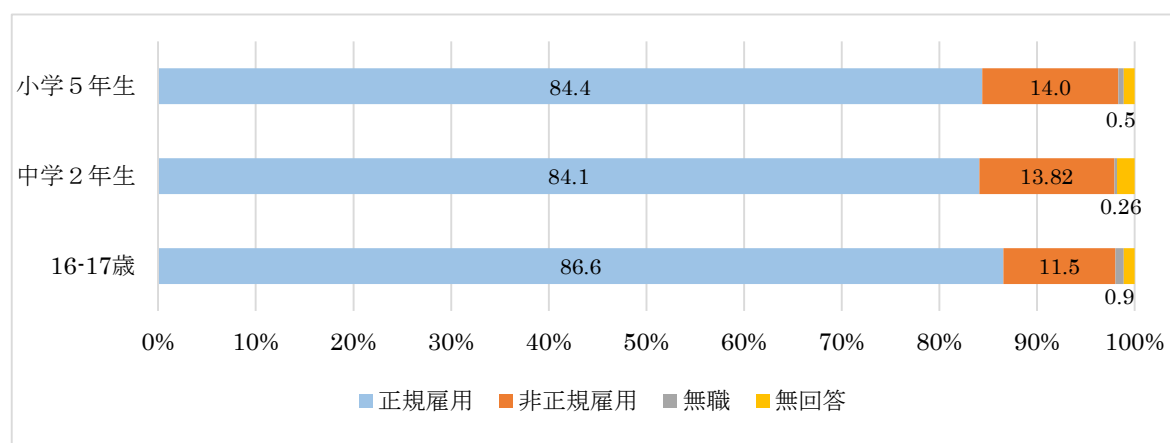
図表 2-2-8 母親の就労状況 ひとり親世帯（16-17歳）：調布市、3自治体（\*\*\*）



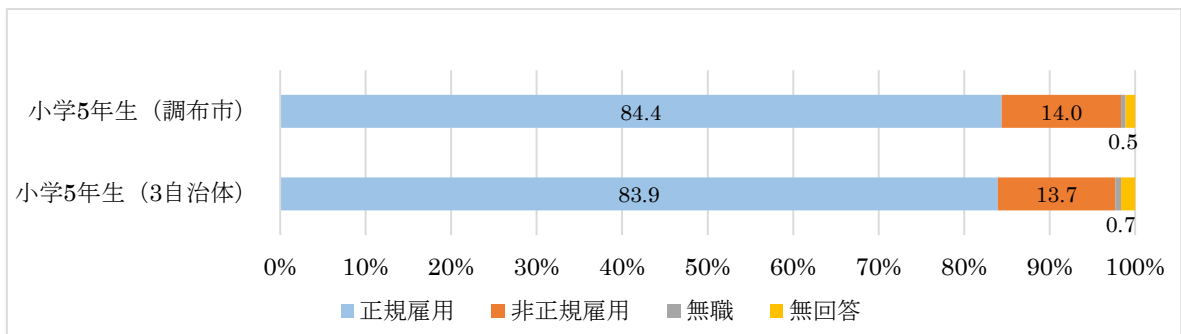
## （2）父親の就労状況

ふたり親世帯の父親の就労状況を見ると、どの年齢層においても約84～87%の子どもの父親は正規雇用（会社役員、正社員、公務員、団体職員）の職、約11～14%の子どもの父親は非正規（パート・アルバイト・非常勤、自営業、自由業、その他の働き方）の職に就いている。無職であると答えたのは、1%に満たなかった。

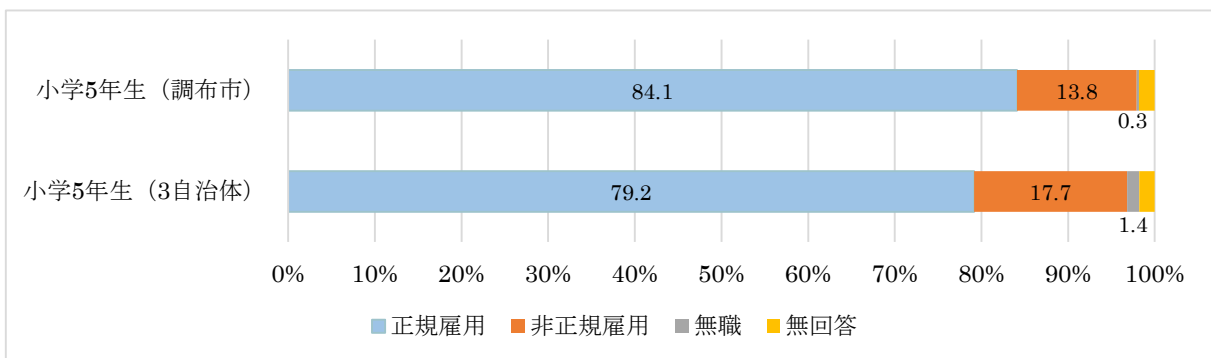
図表 2-2-9 父親の就労状況 ふたり親世帯：年齢層別（X）



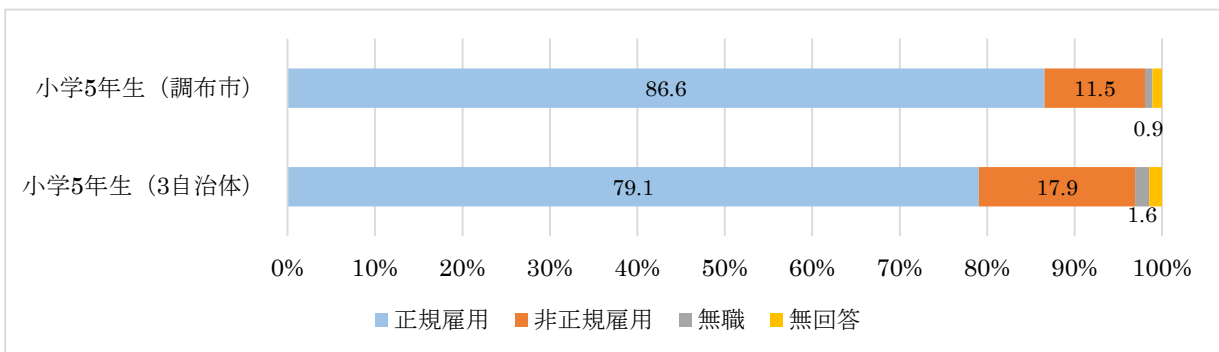
図表 2-2-10 父親の就労状況 ふたり親世帯（小学5年生）：調布市、3自治体（\*\*）



図表 2-2-11 父親の就労状況 ふたり親世帯（中学2年生）：調布市、3自治体（\*\*\*）



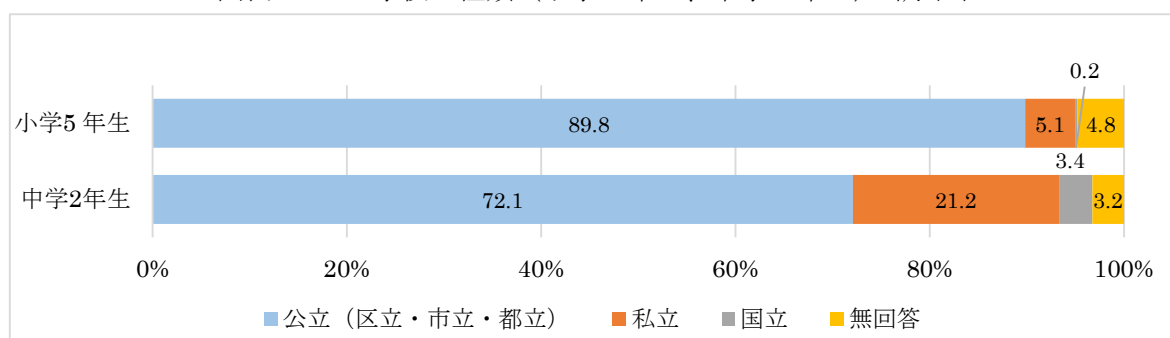
図表 2-2-12 父親の就労状況 ふたり親世帯（16-17歳）：調布市、3自治体（X）



### 3. 学校の種類

調布市の小学5年生と中学2年生の回答者の学校の種類を見ると、小学5年生では約9割が公立（私立・都立）に通っており、約5%が私立に通っている。中学校では公立が約7割、私立が約2割であった。小学5年生、中学2年生ともに、調布市において私立学校に通う子どもの割合は、東京都調査の他の3自治体加重平均よりも高い。

図表 2-3-1 学校の種類（小学5年生、中学2年生）：調布市



16-17歳の回答者については、回答者の99%以上は高等学校、特別支援学校、高等専門学校などの学校に在籍しており、「中退した」というのは0.5%に過ぎなかった。この率は、東京都4自治体加重平均と大きな差はない。

図表 2-3-2 就学状況（16-17歳）：調布市、4自治体

	高等学校(全日制)に在籍	高等学校(定時制)に在籍	高等学校(通信制)に在籍	特別支援学校(夜間中学を含む)に在籍	高等専門学校に在籍	専修学校(高等課程)に在籍	中途退学した	いずれにも在籍したことがない	無回答
調布市	92.4	1.9	1.8	1.5	1.5	0.1	0.5	-	0.3
東京都4自治体	91.4	2.3	2.5	1.3	1.3	0.2	0.4	0.2	0.3